

150 m ←

Tokyo Station

19:37 Arrival

USHIO



光のものがたり

LED・LDが拓く ウシオの光源事業「新時代」

85km/h

2,500r/min



ウシオ電機株式会社 第52期報告書 プリズム

[2014年4月1日~2015年3月31日] 2015年6月発行

PRISM

LED・LDが拓く ウシオの光源事業「新時代」

省エネ・省資源に貢献するLEDは、照明器具の光源として一般家庭用に普及し、近年ではすっかり身近な存在になりました。そして、極めて高い光のスペックが求められる産業分野においても、従来のランプに匹敵する性能を持った光源として、LEDやLD（半導体レーザー）の導入が徐々にはじまっています。

照明だけじゃないLEDの使い方

ウシオライティングでは、ホテルやオフィス、病院などに对し、LEDならではの付加価値のある多様な照明器具を提供しています。しかし、LEDが本領を発揮するのは照明だけではありません。ウシオは光のリーディングカンパニーとして長年培ってきた光技術を駆使し、紫外線から赤外線まで、幅広いLED・LDを、半導体製造プロセスや医療用など様々な用途に向けて、展開しています。

戦略的M&Aの推進

ウシオでは、開発のスピードアップと製品ラインナップ拡充を目的に、積極的にM&Aを推進しています。2014年10月、ウシオは日本オクラロから産業用および民生用LED・LD事業を譲り受け、ウシオオプトセミコンダクターとして新たにスタートさせま

した。2008年、2010年にはそれぞれエピテックス(現ウシオエピテックス)とネクセルを傘下に収めており、今回ウシオオプトセミコンダクターが加わったことで、ウシオグループはお客さまの多様なニーズに応えられる豊富なラインナップのLED・LDを提供する体制が整いました。

ウシオが拓くLED・LDの「新時代」

LEDやLDは、幅広い波長を出すランプとは異なり、使用する材料によって必要な波長を限定して発光させられるという特徴があり、用途によってはランプ以上に効率的に光を活用することができます。

LED・LDの歴史はまだ浅く、将来的には地球社会が抱える問題のソリューションとなるような大きな可能性を秘めていると期待されています。ウシオではさらに高品質なLED・LDを求めて、研究開発を推進しています。

ウシオのLED・LD 主な対象市場

Visual Imaging



プロジェクタ、プリンタ、画像処理など

Process



リソグラフィ、UVキュアリング、3Dプリンタなど

Measurement



監視カメラ、測量機器、コントローラーなど

産業用レーザの ウシオオプトセミコンダクター

ウシオオプトセミコンダクターは、独自のレーザ技術とモノづくりのノウハウを活かし、産業用レーザダイオードを中心に、高機能複合プリンタ用マルチビームレーザ、医療・計測用赤色レーザ、露光装置用青紫色レーザ、ディスプレイ用の高出力赤色レーザ、そしてエンコーダ用高出力赤外LEDなど多岐にわたる光デバイスを提供しています。



UVレーザ

赤色レーザ

近赤外レーザ

マルチビームLD

高出力可視光レーザのネクセル

ネクセルが提供するレーザ光は明るく、広い色彩と鮮やかな色合い、低コスト、長寿命という特長があり、デジタルシネマやプラネタリウムなどに採用されています。なかでも緑色レーザは著名な学会の賞を受賞するなど、新たな市場であるプレミアムシアター向けの光源として、新市場の立ち上がりを力強く牽引しています。



白色レーザ

青色レーザ

緑色レーザ

赤色レーザ

LED照明のトータルソリューション ウシオライティング

ウシオライティングでは、病院やホテルなどには省エネとコスト削減を実現しつつ人に優しい照明を、ステージ照明には多彩な演出が可能な照明機器と最適なライティングコンソールを、植物工場や集魚灯には使用環境と目的に合わせたユニークな装置を提供するなど、顧客のニーズにトータルソリューションで応えています。



LED電球

LEDフォロー
スポットライト

屋外用LED照明

植物育成用無線制御
LEDユニット

紫外線から赤外線まで幅広い高出力LEDラインナップ ウシオエピテックス

ウシオエピテックス[※]は、一般監視用、交通監視用、駐車場監視用などの自動車関連ITS（高度道路交通システム）分野のほか、生体認証、医療・バイオ、産業用光センサなどに搭載する高出力なLEDモジュールを供給しています。



表面実装タイプ
LED

スーパービーム
タイプ

ステムタイプ

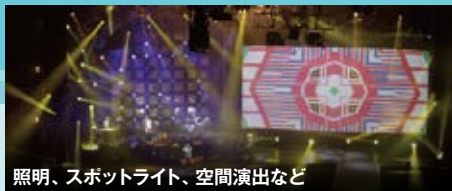
高出力カイルミネータ
タイプ

Automotive/ITS



ヘッドライト、ヘッドアップディスプレイ、ETCなど

Illumination



照明、スポットライト、空間演出など

Science/Medical/Bio



治療、検査機器、植物工場、水・空気殺菌など

ウシオのLED・LD「市場戦略」

ここでは、ウシオ電機の取締役兼固体光源事業部長の伴野裕明と、ウシオオプトセミコンダクターの代表取締役社長小林宇一郎へのインタビューを通じて、市場のニーズに応えるウシオの産業用LED・LDへの取り組みのポイントと現状、そして今後の展望についてお伝えいたします。

QUESTION

現在、一般向けとしては照明器具用LEDが普及していますが、ウシオグループが得意とする産業用としての固体光源(LED・LD)市場は、どのような状況なのでしょう。

ANSWER

固体光源の産業用途には、計測器のように「弱い光」でよいものと、エレクトロニクスの製造プロセスなどで使われる「強い光」の2つがあります。前者の場合、従来の放電ランプやハロゲンランプよりも、むしろ固体光源の方がつくりやすく、すでにLEDやLDへの置き換えが進んでおり、ウシオオプトセミコンダ

クター(以下UOS)やウシオエピテックスが得意としている分野です。

一方、強い光が求められる分野については技術面での課題も多く、他社も含め従来の高性能なランプに匹敵するような固体光源の製品開発は、まだ始まったばかりです。しかしこの分野も徐々に固体光源に置き換わっていくと考えており、当社は目下、急ピッチで技術革新を進めています。

QUESTION

従来のウシオにはどのような強みと弱みがあったのでしょうか。そこにUOSが加わったことで何が変わるのでしょうか。

ANSWER

もともとウシオには、多様な顧客ニーズに対応する非常に幅広い波長域とアプリケーションの産業用光源があり、数々の高シェア製品を擁しているという強みがあります。そこにUOSが加わったことで、グループ全体でさらにバランスの良い技術と製品ポートフォリオを形成することができました。例えば、自動車ITS(高度道路交通システム)市場は、今後相当大きな成長が見込まれているのですが、これまでのウシオはこの分野のア



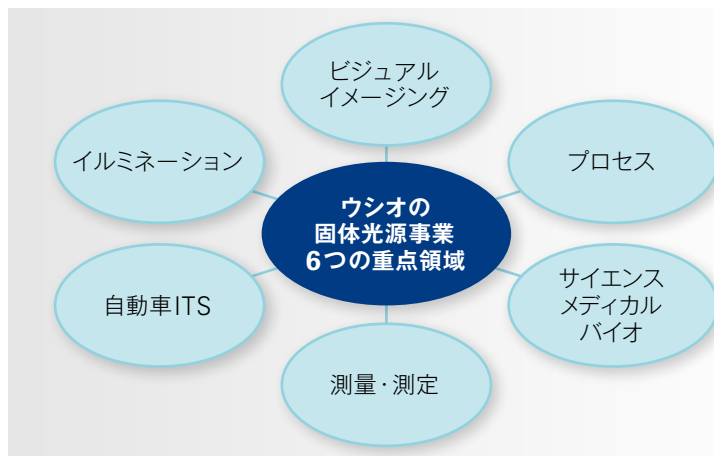
伴野 裕明
ウシオ電機株式会社
取締役兼
固体光源事業部長

リケーションに対して、比較的層が薄かったと言わざるを得ません。計測関連などでも同じことがあり、互いを補完するまさに最適なパートナーがUOSなのです。

UOSは創業以来30年にわたり、常に最先端の固体光源技術に取り組んできたという背景があります。そのノウハウが、ウシオの開発チームにとって貴重なソリューションとなるほか、それぞれ得意分野の異なる技術者が協業することで活発に刺激しあい、新たなイノベーションを生む土壌を醸成していくことにも大いに意味があると考えています。

QUESTION

今後、ウシオの固体光源事業が目指すのは、具体的にはどういった領域・用途になるのでしょうか。また、どの分野が有望でしょうか。



小林 宇一郎

ウシオオプト
セミコンダクター株式会社
代表取締役社長

ANSWER

私たちは今、6つの領域(左図)を狙っています。照明に代表されるイルミネーション、映画・プロジェクタ関連のビジュアルイメージング、プロセス、サイエンス・メディカル・バイオ、測量・測定、それから自動車ITSの6つです。このうちのイルミネーションとビジュアルイメージングは可視光域の用途ですが、その他は紫外線や赤外線を利用したアプリケーションです。

これらのなかでも、直近で最も有望なのはデジタルシネマプロジェクタ(DCP)用のLDです。従来の放電ランプに比べて明るいばかりでなく光の波長域が広がり、非常に美しい映像を映し出すことが可能になりました。この製品はすでに出荷が始まっています。

QUESTION

ウシオはこれまで、シネマ向けビジネスでは映像技術や映画館の進化と合わせて、新しいものや高性能な製品を提供し、そのたびに大きく成長してきました。今回もそういった期待を持ってよいのでしょうか。

ANSWER

期待できると思います。最近、大きなスクリーンを持つプレミアムシアターが話題になっていますが、このプレミアムシアター向けのDCPに搭載する光源が、クセノンランプからLDに置き換わる動きが今年から本格化しています。かつてフィルム映写機からDCPへという大きな流れがあったように、次の波が来ることは間違いありません。そこにさらにUOSが加わったことで一層の進展が期待でき、今後シネマ向けビジネスは再びウシオの成長ドライバーのひとつになると確信しています。



QUESTION

新規分野への進出も視野に入れていますか。その場合、こういった市場が有望でしょうか。

ANSWER

先ほど触れた自動車ITS関連市場が将来極めて大きな市場になるとみており、ウシオでもヘッドアップディスプレイ向けレーザの開発を進めています。ヘッドアップディスプレイというのは、究極的には各種メーターやナビなどの運転席の機器がすべてなくなり、ETCやクラウドと常に通信を行ないながら、あらゆる情報がフロントガラス部に映し出されるというもので、当社が開発しているような高性能なレーザを使用したヘッドアップディスプレイは、数年後には一般市販車に搭載されると思われます。

また、当社が第3の柱として事業を推進しているバイオメディカルでは、固体光源の用途が幅広くマーケットサイズも大きいため、飛躍的な成長の可能性が潜在しています。

QUESTION

長寿命という固体光源の性質上、ランプと異なり買い替え需要が大幅に減ることはありませんか。

ANSWER

ランプに比べ固体光源の寿命は確かに長いのですが、家庭用の照明器具と産業用途では事情が異なります。例えば、半

導体製造プロセスでの光源は、ほぼ24時間365日点灯し続けて1年で約8,500時間持たせるという過酷な条件です。やはり固体光源でも、波長によっては少しずつ結晶が劣化してランプと同じように暗くなってしまうため、例えばプロセスが要求する一定の光の量を保つといった性能がだせなくなります。一般照明の場合、私たち人間自身が無意識のうちに瞳孔で調整してしまうので2~3割暗くなくてもまったく問題ないのですが、産業用ではそれだと困るわけですね。

QUESTION

ウシオのビジネスの大きな特徴は、極めてシェアが高い製品が数多くあることですが、固体光源でも競合他社に対して優位性を確保することができるでしょうか。

ANSWER

ウシオの金属とガラスを使ったランプの加工技術はたしかに大きな優位性で、ランプの開発と製造で培った光技術は一朝一夕に手に入れられるものではありません。一方UOSには、高機能プリンタに採用されている赤色LDがあり、UOSにしか実現できない優れた性能によって、他社を大きくリードしています。

現在、顧客の固体光源に対する期待は高く、開発競争は熾烈になっています。ウシオは、光のリーディングカンパニーとしての独自の光技術と、これまで培ってきたお客さまとの信頼関係

を大きな強みとしているので、時代に合わせて技術を磨き、顧客ニーズを掘り起こすというウシオらしいアプローチで固体光源事業の成長を図っていきます。

QUESTION

今後数年間の中期的なビジョンについて、教えてください。

ANSWER

ウシオが固体光源推進室をつくったのは2008年でした。同年にエピテックス(現ウシオエピテックス)買収、2010年にネクセル買収と続き、2014年にUOSが誕生しました。7年経った2015年度は、売上高がほぼ100億円、2018年度には約160億円を計画しています。製品ラインナップは、今期から本格的な出荷が始まったシネマ向けLD以外にも、数多くの開発案件を進めつつ製品としてリリースする時期をみています。

ウシオグループでは、光源単体のみならず、様々な光学部品を組み合わせたモジュールおよび最終製品の提供にも力を入れており、固体光源においても付加価値の高い製品を提供していく方針です。

株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、
ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
また、日頃より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
第52期(2015年3月期)報告書「PRISM」をお届けし、
当期のウシオグループの事業環境や各事業の概況、
および今後の取り組みについてご報告申し上げます。



2015年3月期は増収減益

当期の業績は、売上高が前期比1.0%増収の1,593億円、営業利益が14.5%減益の103億円となりました。セグメント別には、装置事業が減収減益、光源事業が増収増益でした。

装置事業における映像装置では、シネマ分野において全世界のシネマスクリーンの約95%ですでにデジタル化が完了しているとみられることから、デジタルシネマプロジェクトの販売台数は前期より半減しました。一方、一般映像分野では、製造工程の開発評価用(デザインレビュー等)で使用されるバーチャルリアリティシステムや訓練用シミュレーションシステムなど当社の映像システムを使用する機会が全世界に広がり販売が拡大しましたが、デジタルシネマプロジェクトの販売減少を補うにはいたりませんでした。光学装置では、引き続き堅調に推移しているスマー

トフォン需要に支えられ、関連した電子部品向け光学装置の販売が拡大したものの、EUV光源事業縮小の影響や主力のパソコン向けパッケージング用露光装置の販売減少および液晶パネル製造用光配向装置の検収遅れによる期ずれが想定以上に発生したことが業績に影響しました。

光源事業では、放電ランプ、ハロゲンランプともに好調でした。特にシネマプロジェクト用ランプは、新興国を中心にデジタルシネマスクリーンの新設が継続しており、販売が拡大しました。また、放電ランプのセグメントに含まれている固体光源についても、昨年10月に新規連結したウシオオプトセミコンダクターを中心に大きく伸ばしています。なお、この固体光源事業については、当報告書の「光のものがたり」で詳しく取り上げていますので、ご高覧いただければ幸いです。

業績の推移

(億円)

	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
売上高	1,434	1,578	1,593
営業利益	75	121	103
営業利益率	5.3%	7.7%	6.5%
当期純利益	71	107	112
自己資本比率	75.9%	73.5%	73.3%
ROE	4.3%	6.0%	5.6%

*数値はすべての表示数未満の位を切り捨てて表示しています。

中期経営計画(2015年5月11日発表)

当社では、毎年ローリングプランとして中期経営計画を発表しています。当社の業績は、特にリーマンショック後は市場の期待する水準に達していない状況が続いていると認識しており、特に開発投資等の投資効率の向上および今後の成長ドライバーの早期創出により、収益性を向上させていく必要があると考えています。そのような背景のもと、3年後の2018年3月期にはROE8.0%以上、売上高2,200億円、営業利益180億円(営業利益率8.2%)とすることを目標に掲げ、さらに2020年3月期にはROE10%を目指したいと考えています。この目標達成のために、主に「事業収益の拡大」、「資本効率の向上」および「株主還元強化」の3つを重点施策として進めていきます。

事業収益の拡大

主に次に掲げる施策を戦略的かつ大胆に進めることで事業体質の改善を図ります。

まず、今まで以上に大胆に「リソース配分の見直しおよび再配分」を実施します。特に研究開発における開発テーマの遂行につ

いては、より厳しい基準で見直しを行うことで投資効率を高めていきます。また、人員に対するリソース配分は、今まで以上にグループ横断的に、かつ積極的に行なっていきます。

次に「ソリューションビジネスへの転換」を図ります。当社はこれまでOEM中心に事業を営んできましたが、今後はより積極的に新しい市場、分野へ進出していくべく、ソリューションという形で自ら提案できる力を身に付け、提案型ビジネスを展開していきます。それにより、新規市場への進出を加速していきます。

なお、新たにマーケティングイノベーション部を創設し、各事業におけるロードマップをしっかりと見据えた事業戦略を強化していきます。

最後に、M&Aの推進について、金額件数ともに拡大し、技術や販売チャネルだけでなく優秀な人材についても積極的に獲得していく考えです。これらの施策により、既存のリソースを最大限に活かし、キャッシュアウトの増加を抑制することで経費効率を改善するとともに、将来の新製品比率の向上と新規事業創設のスピードアップを図っていきます。

中期経営計画 数値目標

(億円)

	2015年3月期 (実績)	2016年3月期 (計画)	2018年3月期 (計画)	
売上高	1,593	1,800	2,200	
営業利益	103	130	180	
営業利益率	6.5%	7.2%	8.2%	2020年3月期 達成目標 ROE10%
ROE	5.6%	5.7%	8.0%以上	

資本効率の向上

現在当社の金融資産は、総資産の約半分を占めるまでに増加しており、資本効率悪化の要因となっています。今後は、金融資産から事業資産への振替を加速することで効率的な資産運用ならびにROE向上を目指します。また、政策保有株式に関しても見直していく方針ですが、売却により得たキャッシュをM&A等の事業投資に回すことで、将来は金融資産による財務収益に頼らず、真の事業利益による安定したROE維持を目指します。

株主還元強化

ROE目標達成のため、事業の成長投資とともに株主還元を強化し、バランスのとれた資金運用を目指します。具体的には、配当金については従来通り安定配当の方針を維持し、自社株買いについては今後得られるフリーキャッシュ・フローの予測や株価

の動向等を勘案し、事業成長への投資を積極的に行なった上で、より積極的かつ機動的に実施していく方針です。なお、5月11日付で、20億円、120万株の自社株買いを公表しています。

また、株主重視の経営を目指す一環として、役員を対象に連結営業利益とROEに連動する株式報酬制度の導入を決定しました。

株主の皆さまには、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2015年6月

代表取締役社長・CEO

浜島健爾

事業概況

売上高構成比 その他 2.2%



セグメント

売上高(億円)

セグメント利益(億円)

強み



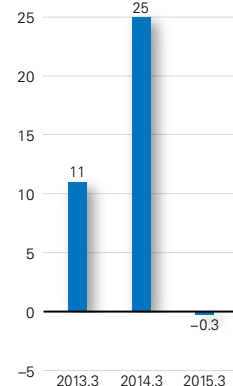
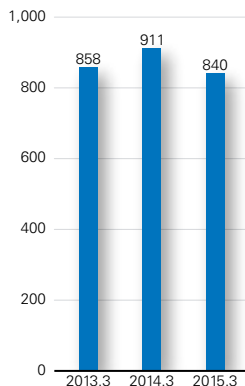
装置事業

映像装置

- デジタルシネマプロジェクタ(DCP)
- 一般映像用デジタルプロジェクタ、コントロールルーム、シミュレータ、デジタルサイネージ、バーチャルリアリティシステム

光学装置

- 半導体、FPD、電子部品製造用各種光学装置(露光装置、光洗浄ユニット、光硬化装置など)
- 紫外線皮膚治療器など医療機器
- 半導体検査・開発用EUV光源装置



映像装置

- デジタルシネマプロジェクタ
世界シェア 40%

光学装置

- 滴下式液晶パネル貼り合わせ装置
世界シェア 70%
- 高精細プリント基板用ステップ&リピータ
投影露光装置
世界シェア 95%
- 液晶パネル光洗浄装置
世界シェア 90%



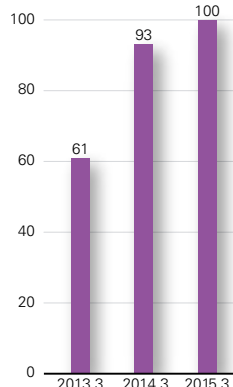
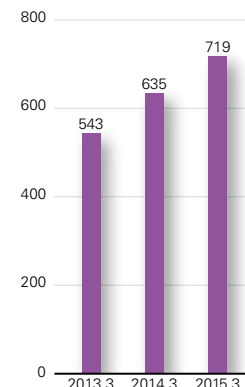
光源事業

放電ランプ/LED・LD

- 半導体、FPD、電子部品製造装置用光源
- シネマプロジェクタ用、データプロジェクタ用、OA機器用、照明用及び産業用光源

ハロゲンランプ

- OA機器用
- 照明用(商業施設、舞台・スタジオ、特殊照明等)
- 産業用ヒータランプ



放電ランプ/LED・LD

- 半導体/電子部品
リソグラフィ用UVランプ
世界シェア 80%
- シネマプロジェクタ用ランプ
世界シェア 65%
- 原稿読み取り用LEDモジュール
世界シェア 20%

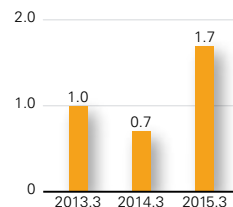
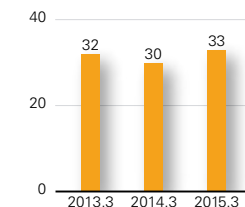
ハロゲンランプ

- トナー定着用ハロゲンヒータ
世界シェア 80%



その他

- プラスチック成形用途、周辺機械
- 産業機械、システム
- その他



*シェアは2015年3月31日現在、自社調べ。*売上高は外部顧客への売上高を記載。

セグメント別の概況



装置事業

主な商品

露光装置、光硬化装置、光検査装置など光学装置
デジタルシネマプロジェクタ、コントロールルーム、シミュレータ、
デジタルサイネージ、バーチャルリアリティシステムなど映像装置
紫外線皮膚治療器、血管可視化装置など医療機器
半導体検査・開発用EUV光源装置

当期の業績

映像装置のうちシネマ分野は、先進国を中心に映画館のデジタル化がほぼ完了したため、デジタルシネマプロジェクタの出荷台数が前期を下回りました。一般映像分野は、各種イベントや大型ホール、アミューズメントパークなどのエンターテインメント向け、および産業用途におけるシミュレーションやバーチャルリアリティシステムおよびコントロールルーム用などの各種映像機器が堅調に推移しました。

光学装置は、スマートフォンやタブレット端末の旺盛な需要に支えられ、露光装置やモバイル用高精細液晶パネル向け光配向装置、および一部プリント基板用露光装置は堅調に推移したものの、パソコン向けパッケージング用プリント基板向け露光装置が低迷したほか、装置の検収の後倒しが想定以上に発生した影響などから、販売数量が減少しました。

その結果、売上高は前期比7.7%減の841億8千8百万円、セグメント損失は3千6百万円となりました。

2016年3月期の見通し

シネマ分野では中国を中心に新興国のデジタルシネマスクリーン数が増加するものと予想されており、デジタルシネマプロジェクタの販売台数は微増の見込みです。また、音響システムや口

ピー広告、サービスメンテナンス等を含めたトータルソリューションビジネスの販売拡大を計画しています。一般映像分野では、引き続きエンターテインメントやバーチャルリアリティ、シミュレーションシステムなどでの映像機器の需要拡大が見込まれていることから、映像装置全体で販売拡大を計画しています。

光学装置は、引き続きスマートフォンやタブレット端末の需要に支えられ、高精細液晶パネル向け光配向装置やセンサー・MEMS等各種デバイス向け露光装置およびプリント基板用直描装置などで販売台数増加が期待できるほか、有機基板対応の3D積層用パッケージ向け露光装置の新規需要も立ち上がってくるものと予想しています。

これらによって、次期の装置事業は増収増益を計画しています。

装置事業売上高 中期経営計画

(億円)

	2015年3月期 (実績)	2016年3月期 (計画)	2018年3月期 (計画)
映像装置	603	750	930
光学装置	212	245	360
照明装置他	23	20	30



光源事業

主な商品

半導体／FPD／プリント基板製造装置用UVランプ
 各種監視、生体認証、光センサ用LED
 照明用、データプロジェクタ用、シネマプロジェクタ用、OA機器用
 など各種ランプ及びLED

当期の業績

光源事業では、円安の影響もあり全般的に好調な結果となりました。

露光用UVランプは、半導体分野を中心にユーザ稼働率は高水準を維持しリプレイス需要が好調であったものの、引き続き長寿命タイプの採用が進んだことから、ほぼ横ばいとなりました。シネマプロジェクタ用キセノンランプは、デジタルシネマプロジェクタの出荷台数は減少傾向ですが、新興国を中心に総設置台数は増加し続けていることから好調に推移しました。データプロジェクタ用ランプは、ハイエンドおよびローエンドの両タイプで順調でした。また、固体光源はプロジェクタ用レーザー光源の需要が拡大したこと、ウシオオプトセミコンダクターが新たにウシオグループに加わったことなどにより販売が拡大しました。その結果、放電ランプの販売は好調に推移しました。

ハロゲンランプは、OA機器セットメーカーの底堅い需要に支えられ好調でした。

その結果、売上高は前期比13.7%増の730億1千4百万円、セグメント利益は前期比7.3%増の100億7千4百万円となりました。

2016年3月期の見通し

放電ランプのうちUVランプは、半導体、液晶ともに設備の稼働は高水準が維持されるものの、長寿命タイプの採用が続くものと思われます。シネマ用ランプは、中国を中心とした新興国でのデジタルシネマスクリーンの増設によって販売数の増加が予想されるものの、競争激化による単価下落の影響が懸念されています。また、固体光源は引き続きプロジェクタ用レーザー光源の需要拡大が期待されます。

ハロゲンランプは、OA用途のランプがセットメーカーの底堅い需要に支えられ堅調に推移すると見込んでいます。

これらから、次期の光源事業は増収増益を計画しています。

光源事業売上高 中期経営計画

(億円)

	2015年3月期 (実績)	2016年3月期 (計画)	2018年3月期 (計画)
放電ランプ (固体光源を含む)	576	620	700
ハロゲンランプ	142	140	150

連結決算 (記載金額は百万円未満を切り捨てて表示)

連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科目	第52期 (2015.3.31)	第51期 (2014.3.31)	科目	第52期 (2015.3.31)	第51期 (2014.3.31)
資産の部			負債の部		
流動資産	178,774	153,004	流動負債	44,886	39,957
現金及び預金	60,765	46,146	支払手形及び買掛金	17,786	16,757
受取手形及び売掛金	39,796	39,853	短期借入金	4,272	1,669
有価証券	13,503	12,724	その他	22,827	21,530
商品及び製品	28,997	24,321	固定負債	30,932	24,134
仕掛品	7,888	5,836	長期借入金	8,430	3,334
原材料及び貯蔵品	15,361	11,691	繰延税金負債	5,792	2,347
繰延税金資産	6,016	5,678	その他	16,708	18,452
その他	7,740	7,449	負債合計	75,818	64,091
貸倒引当金	△1,295	△697	純資産の部		
固定資産	115,767	102,334	株主資本	178,891	169,482
有形固定資産	40,014	39,126	資本金	19,556	19,556
建物及び構築物(純額)	18,000	18,097	資本剰余金	28,301	28,371
機械装置及び運搬具(純額)	4,019	3,791	利益剰余金	143,883	134,798
土地	9,670	9,266	自己株式	△12,850	△13,244
その他	8,322	7,970	その他の包括利益累計額	37,033	18,302
無形固定資産	7,098	4,159	その他有価証券評価差額金	29,892	21,407
投資その他の資産	68,655	59,048	繰延ヘッジ損益	0	△7
投資有価証券	63,250	54,883	為替換算調整勘定	12,425	1,590
その他	5,405	4,165	退職給付に係る調整累計額	△5,285	△4,687
資産合計	294,542	255,338	少数株主持分	2,798	3,461
			純資産合計	218,723	191,246
			負債純資産合計	294,542	255,338

総資産は、前期末比392億3百万円増加し2,945億4千2百万円。主な増加要因は、銀行借入れの増加による「現金及び預金」の増加および保有投資有価証券の含み益の増加による「投資有価証券」の増加です。

負債は、前期末比117億2千6百万円増加し758億1千8百万円。主な増加要因は、「短期借入金」および「長期借入金」の増加、保有投資有価証券の含み益の税金部分の増加による「繰延税金負債」の増加です。

純資産は、前期末比274億7千6百万円増加し2,187億2千3百万円。主な増加要因は、円安による「為替換算調整勘定」の増加、保有投資有価証券の含み益の増加による「その他有価証券評価差額金」の増加および退職給付に関する会計基準等の改正による「利益剰余金」の増加です。

連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第52期 (2014.4.1~2015.3.31)	第51期 (2013.4.1~2014.3.31)
売上高	159,365	157,800
売上原価	98,030	101,809
売上総利益	61,335	55,991
販売費及び一般管理費	50,977	43,881
営業利益	10,357	12,110
営業外収益	3,744	4,377
営業外費用	393	583
経常利益	13,708	15,904
特別利益	3,650	1,936
特別損失	1,813	2,325
税金等調整前当期純利益	15,545	15,515
法人税、住民税及び事業税	3,342	5,379
法人税等調整額	660	△714
法人税等合計	4,002	4,665
少数株主損益調整前当期純利益	11,542	10,850
少数株主利益	263	79
当期純利益	11,279	10,770

売上高は、前期比1.0%増の1,593億6千5百万円。光源事業では、固体光源のプロジェクト用レーザー光源拡大とUOSが牽引し、ハロゲンランプはOA用が好調に推移。一方装置事業では、堅調な一般映像分野に対しDCPの出荷台数が5割減、光学装置も減収でした。

営業利益は、前期比14.5%減の103億5千7百万円。映像装置では一般映像装置が堅調でしたがDCPの出荷減少のため減益。光学装置も減益でした。

経常利益は、EURO建て資産の「為替評価損」により、前期比13.8%減益の137億8百万円。

当期純利益は、一部保有株式の売却で特別利益36億5千万円を計上し、前期比4.7%増の112億7千9百万円。

連結包括利益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第52期 (2014.4.1~2015.3.31)	第51期 (2013.4.1~2014.3.31)
少数株主損益調整前当期純利益	11,542	10,850
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,485	6,740
繰延ヘッジ損益	7	16
為替換算調整勘定	11,020	5,414
退職給付に係る調整額	△597	—
持分法適用会社に対する持分相当額	2	6
その他の包括利益合計	18,919	12,177
包括利益	30,462	23,027

営業活動によるキャッシュ・フローは、98億7千6百万円の収入。主な収入は、税金等調整前当期純利益155億4千5百万円および減価償却費の発生59億1千9百万円、売上債権の減少34億1千2百万円です。主な支出は、投資有価証券売却益32億9千6百万円、たな卸資産の増加65億7千4百万円および法人税等の支払52億7千1百万円です。

投資活動によるキャッシュ・フローは、37億1千万円の支出。主な収入は、定期預金の払戻130億5百万円、有価証券売却および償還40億6千3百万円、投資有価証券売却および償還49億3千1百万円です。主な支出は、定期預金の預入129億7千5百万円、有価証券取得12億4千万円、有形固定資産取得40億9千2百万円、投資有価証券取得26億1千9百万円、連結範囲変更を伴う子会社株式の取得18億1千5百万円と事業譲受25億8千8百万円です。

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第52期 (2014.4.1~2015.3.31)	第51期 (2013.4.1~2014.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,876	10,622
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,710	△4,476
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,210	△6,670
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,270	2,604
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	11,646	2,080
現金及び現金同等物の期首残高	45,342	43,261
現金及び現金同等物の期末残高	56,989	45,342

財務活動によるキャッシュ・フローは、12億1千万円の収入。主な収入は、短期借入金の純増減額26億円、長期借入59億4千1百万円です。主な支出は、長期借入金の返済34億8千2百万円および配当金の支払33億8千8百万円です。

連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

第52期 (2014.4.1~2015.3.31)	株主資本					その他の包括利益累計額					少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	19,556	28,371	134,798	△13,244	169,482	21,407	△7	1,590	△4,687	18,302	3,461	191,246
会計方針の変更による 累積的影響額			1,193		1,193							1,193
会計方針の変更を反映した 当期首残高	19,556	28,371	135,992	△13,244	170,676	21,407	△7	1,590	△4,687	18,302	3,461	192,440
当期変動額												
剰余金の配当			△3,388		△3,388							△3,388
当期純利益			11,279		11,279							11,279
自己株式の取得				△432	△432							△432
株式交換による増加		△69		826	756							756
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						8,485	7	10,834	△597	18,730	△662	18,067
当期変動額合計	—	△69	7,890	393	8,215	8,485	7	10,834	△597	18,730	△662	26,282
当期末残高	19,556	28,301	143,883	△12,850	178,891	29,892	0	12,425	△5,285	37,033	2,798	218,723

(単位:百万円)

第51期 (2013.4.1~2014.3.31)	株主資本					その他の包括利益累計額					少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	19,556	28,371	126,912	△12,231	162,609	14,666	△23	△3,623	—	11,019	3,155	176,784
会計方針の変更による 累積的影響額					—							—
会計方針の変更を反映した 当期首残高	19,556	28,371	126,912	△12,231	162,609	14,666	△23	△3,623	—	11,019	3,155	176,784
当期変動額												
剰余金の配当			△2,884		△2,884							△2,884
当期純利益			10,770		10,770							10,770
自己株式の取得				△1,012	△1,012							△1,012
株式交換による増加					—							—
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						6,740	16	5,213	△4,687	7,283	305	7,589
当期変動額合計	—	—	7,886	△1,012	6,873	6,740	16	5,213	△4,687	7,283	305	14,462
当期末残高	19,556	28,371	134,798	△13,244	169,482	21,407	△7	1,590	△4,687	18,302	3,461	191,246

新任社外役員紹介

私は25年間、ITを有効活用した経営改革と業務改革を推進するコンサルティングサービス会社を経営してきました。その経験から、今後グローバル社会においては、多様性とスピードに応えられるイノベーションが、ますます重要になるということを感じています。

ウシオグループは、堅実経営のグローバルカンパニーとして、これまで数多くの分野で世界初や世界トップシェア製品を生み出してきました。この伝統をさらに発展させ、これからも新たな付加価値の高い製品を生み出し成長を続けていかなければなりません。

私は当社の社外取締役として、経営とITの知見を活かし、最適を追求する視点でウシオグループの成長とガバナンス力強化に貢献してまいりたいと存じます。

金丸 恭文

社外取締役

フューチャーアーキテクト株式会社 代表取締役会長兼社長



私は、金融機関、ならびにその関連業務に従事して35年になります。その間、多くのお取引先の成長・発展、時に苦境の局面に立会い、文字通り企業の「栄枯盛衰」を目の当たりにしてきました。同時に、私自身2度の合併経験を経て、コーポレートガバナンスがいかに重要であるかを強く実感しています。その一方で、法整備された制度や枠組みだけでは限界があり、会社の持続的な成長には、関与する人間の「本質」を高めていくことも大切な要素だということ、常々考えています。

変化の激しい現在にあって、活力に満ちたウシオグループのさらなる企業価値増大に貢献できるよう、中長期的な展望と俯瞰的な視野を持って尽力してまいります。

野崎 清二郎

社外監査役

りそなビジネスサービス株式会社 常勤監査役



株式の状況 (2015年3月31日現在)

発行済株式総数 139,628,721株

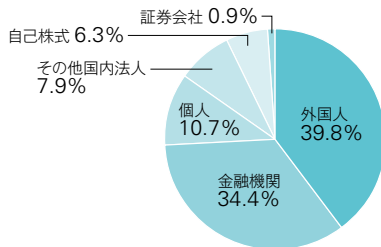
株主数 13,242名

大株主の状況 (200万株以上)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	8,947	6.40
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	5,752	4.12
オーエム04 エスエスピー クライアント オムニバス	5,293	3.79
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	4,274	3.06
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,248	3.04
ジェービー モルガン チェース バンク 385174	4,180	2.99
株式会社りそな銀行	3,616	2.58
朝日生命保険相互会社	3,305	2.36
牛尾 治朗	3,226	2.31
ステート ストリート バンク アンドトラスト カンパニー 505001	2,949	2.11
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・株式会社りそな銀行退職給付信託口)	2,911	2.08
RBC IST 15 PCT LENDING ACCOUNT-CLIENT ACCOUNT	2,676	1.91
公益財団法人ウシオ財団	2,400	1.71
ステート ストリート バンク アンドトラスト カンパニー 505103	2,308	1.65

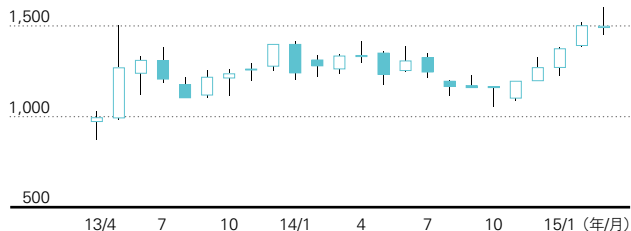
※上記のほか、当社が所有している自己株式8,819千株があります。
 ※大株主上位に記載されている各信託銀行は、主に国内機関投資家が保有する有価証券の管理事務を行っており、当該機関投資家の株式名義人となっているものです。また信託口とは、当該機関投資家から年金信託、投資信託、特定金銭信託等の信託を受けている口座を指します。

株式の分布状況



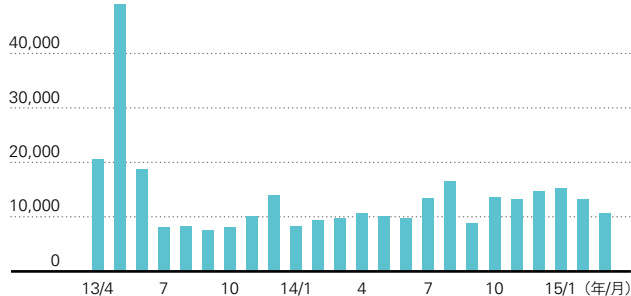
株価の動き

2,000(円)



株式売買高

50,000(千株)



会社概要

設立 1964年3月

資本金 19,556,326,316円

役員 (2015年6月26日現在)

代表取締役会長	牛尾 治朗
代表取締役社長	浜島 健爾
取締役	徳廣 慶三
取締役	牛尾 志朗
取締役	伴野 裕明
取締役	田中 米太
取締役	小林 敦之
取締役相談役	菅田 史朗
取締役(社外)	中前 忠
取締役(社外)	原 良也
取締役(社外)	金丸 恭文
常勤監査役	多木 正
常勤監査役	大島 誠司
監査役(社外)	服部 秀一
監査役(社外)	米田 正典
監査役(社外)	野崎清二郎

従業員数 (2015年3月31日現在)

ウシオ電機本体	1,755名
国内グループ計	705名
海外グループ計	3,080名
合計	5,540名

グループ会社 57社 (2015年3月31日現在)

ウシオ電機株式会社

本社	東京都千代田区
播磨事業所	兵庫県姫路市
御殿場事業所	静岡県御殿場市
横浜事業所	神奈川県横浜市
東京営業本部	東京都千代田区
大阪支店	大阪府大阪市

国内グループ会社 11社

ウシオライティング株式会社
株式会社ジーベックス
日本電子技術株式会社
株式会社アドテックエンジニアリング
株式会社プロトセラ
ウシオオプトセミコンダクター株式会社

他5社

海外グループ会社 45社

北米

- USHIO AMERICA, INC.
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS USA, INC.
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA INC.
- CHRISTIE MEDICAL HOLDINGS, INC.
- NECSEL INTELLECTUAL PROPERTY, INC.

欧州

- USHIO EUROPE B.V.
- USHIO FRANCE S.A.R.L.
- USHIO DEUTSCHLAND GmbH
- USHIO U.K., LTD.
- BLV Licht-und Vakuumtechnik GmbH
- NATRIUM Sp. zo.o.

アジア

- USHIO HONG KONG LTD.
- USHIO TAIWAN, INC.
- USHIO PHILIPPINES, INC.
- USHIO (SUZHOU) CO., LTD.
- USHIO ASIA PACIFIC PTE. LTD.
- USHIO KOREA, INC.
- USHIO SHANGHAI, INC.
- USHIO SHENZHEN, INC.

他26社

株主メモ

証券コード	6925
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。 なお、中間配当制度は採用していません。
1単元の株式数	100株
公告掲載URL	http://www.ushio.co.jp/kokoku ※やむを得ない事由により上記URLにおいて公告することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人 及び特別口座管理 機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	0120-782-031 (フリーダイヤル)

各種お手続きに関するお問合せ先

お問合せの内容	一般口座 (証券会社の口座に記録された株式)	特別口座 (証券会社に口座のない株式)
・住所・氏名等の変更 ・単元未満株式の買取請求 ・配当金の受取方法の指定 ・相続	お取引の証券会社	三井住友信託銀行
・一般口座への振替	—	
・支払期間経過後の配当金	三井住友信託銀行	

「配当金計算書」について

配当金支払いの際に送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行なう際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主さまにつきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社などで行ないます。確定申告を行なう際の添付資料につきましては、お取引のある証券会社などにご確認をお願いいたします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主さまにつきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をされる株主さまは、大切に保管ください。

発行: ウシオ電機株式会社
コーポレートコミュニケーション部
〒100-8150 東京都千代田区大手町2-6-1
TEL: 03-3242-1815 FAX: 03-3245-0589
<http://www.ushio.co.jp>

PRISM

PRISM(プリズム)は透明な光学ガラスでできた多面体で、光を分散・屈折・反射させるときに用います。「PRISM」は、光を柱に事業を展開するウシオの今と未来を多面的に取り上げ、株主や投資家の皆さまにお伝えする情報誌です。ウシオISMをPRし、理解を深めていただく編集意図もこめて、名づけました。



この印刷物は、環境に優しい用紙と、
ベジタブルインキを使用しています。